

今更ながらのWindowsキー

JJ1SXA/池

パソコンを使っていれば、ショートカットキーは当然使いますよね、本当にショートカットキーは便利この上無しの存在だと思います。

私もそれなりに身近なものの一部は使っているが、最近、あるPC関連雑誌の記事を見て、私の知っているショートカットキーは、本当に極々一部なんだと再認識しました、そのほとんどは、いわゆるCtrl系と言われる、左手で押せる「Ctrl+△」の物がほとんどです。

覚える時は、モールス信号を覚える時の合調語のように、単語の頭文字で覚えた、英語は苦手ながら、この位の単語はわかる、「Ctrl+C」はコピーで、CopyのC、「Ctrl+A」は全て選択、AllのA、「Ctrl+S」は保存、SaveのS、「Ctrl+P」は印刷、PrintのP、「Ctrl+B」は太字、BoldのB、「Ctrl+U」は下線、UnderlineのU、「Ctrl+I」は斜体、ItalicのIといったところだ、その他に頭文字では無いものに、「Ctrl+X」は切り取りだが、Xはハサミに見える、「Ctrl+V」は貼り付けで、コピーCの右隣りに貼り付いている、「Ctrl+Z」は元に戻すだ、Zはアルファベットの最後だから先が無く戻るしか無い、「Ctrl」は、Controlの略で「制御する」という意味を持つ、まだ他にも「Ctrl+△」はある。

「Ctrl」キーの他の特殊キーは、「Shift」、「Alt」、「Esc」、「Tab」、「Windows(ロゴ)」等があるが、「Shift」は、Shift(シフト)関連は転じるという意味で、一緒に押したキーを本来とは違う動作に切り替える、「Alt」キーのAltは、Alternateの略で代替という意味を持ち、基本的には他のキーと組み合わせる、「Esc」キーのEscはEscapeの略で、逃げる、回避するという意味だ、「Tab」のTabはTabulaterの略で表作成者という意味を持ち、タイプライターの作表が由来で、パソコンでも表の横方向の項目区切りに使われる(転じて項目の「移動」という意味もあるようだ)、最後の「Windows(ロゴ)」キーだが、Windowsのロゴが刻印されていて、ウィンドウズキー或いはウィンドウズロゴキーと読む。

一番便利だと思ったのは、「Windows+数字」の機能、これは、タスクバーに並ぶアプリを起動できる、「Windows+1」なら一番左にピン止めしたアプリ、「Windows+2」なら左から2番目にピン止めしたアプリ、3以降も同様だが、余り沢山だと覚えきれない、私は「Windows+3」までにしている、これだと、左手の小指で「Windows」キー、薬指で「1キー」、中指で「2キー」、人差し指で「3キー」が押せる。(テンキーは使わない)

これに伴い、タスクバーのアプリアイコンを並べ替えておかなければいけない、私は、一番左は、メールアプリ、次は、専用掲示板アプリ、次は、エクスプローラだ、何時でも好きなように並び替えはできる、更に、「Windows+Shift+数字」と「Shift」を加えると同じアプリがもう一つ開く、「Windows+D」は開いている全ての画面を最小化、もう一度押せば元に戻る、何枚も画面を開いていても、「Windows+Home」で最前面のウインド以外が全て最小化される、「Windows+[+]」は、拡大鏡を起動して、マウスポインター近辺がフル画面で拡大表示される(老眼には有難いhi)、「Windows+[-]」でも縮小されるが、一挙に終了は「Windows+Esc」、「Windows+X」は、スタートボタン右クリックと同じクイックリンクメニューが開くが、「Windows+X→U→U」でPCシャットダウン、「…→U→R」で再起動もある、こんな技は知らなかった、この他にもまだ、「Windows+△」は沢山ある、改めて「Windows」キーの多彩な役割に目から鱗だ。

(2022年4月記)